

6/25

あらおに Go ばい!

～観光キャラバン隊が荒尾を PR～

▶PR活動を行ったグリーンランド遊園地の南さんとマシヤッキー



市と市観光協会、グリーンランドリゾートが連携して、荒尾市観光キャラバン隊を結成しました。例年2月に行うPR活動に加えて、今回は新型コロナウイルスの影響からの早期回復を図るため、臨時で九州の各都市を訪問して観光PRを実施。市内観光施設が感染予防対策を万全に実施して安全に営業していることや、市が販売している5倍お得な宿泊支援クーポン「Go ばい! キャンペーン」についてテレビに出演するなどしてPRしました。

6/26

花と緑と笑顔あふれる地域を目指し

～国土交通大臣表彰受賞～

▶浅田市長に受賞報告をする助丸区花菖蒲愛好会の皆さん



助丸区花菖蒲園を管理する助丸区花菖蒲愛好会に、第31回「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰が贈られました。

助丸区花菖蒲園の手入れのほか、地区内の緑化、花いっぱい活動にも精力的に取り組まれています。同会の古嶋会長は「地域の人たちの交流の場づくりをテーマに今までやってきた。きれいに手入れをすることで住民の皆さんも喜んでくれるので、まだまだ頑張りたい」と今後の活動にも意欲を見せました。

寿

100歳

おめでとうございます



前村トシ子さん (菰屋北)

6月25日に100歳の誕生日を迎えられました。梨や米など農作業に携わっており、80歳頃まで働いていた働き者です。息子4人を立派に育て上げ、家族や友人と一緒に温泉などへ旅行をしたり、カラオケを楽しんだりするのが好きでした。

家族は「体を動かし、よく働いていたのが長寿の秘訣」と話していました。

7/1

有明海の豊かな資源を守るため

～熊本県クルマエビ共同放流事業～

▶「また戻ってきてね」と声をかけながら放流する子どもたち



クルマエビ共同放流事業は、有明海沿岸に位置する市町村や漁協などが、クルマエビ資源の維持・増大のため、稚エビの放流を平成15年から毎年実施している事業です。

ことしは県内で約140万匹の稚エビを放流し、市では荒尾漁協の関係者15人が16万8千匹の放流を行いました。

今回は、めぐみ幼稚園の年長園児10人も参加をし、「大きくなってね」などと声をかけながら稚エビを放流していました。

僕らのまちの 学校通信

～地域の皆さんにお届けします～

今日は「有明小」からのお便りです

つなぐ・つながる ～「考働」～

サブテーマの「考働」が、普段よく使う「行動」と違うところは、考えて人とともに動くということです。児童みんながつながるために、一人一人が考えて、周りの人とともに動くことを目指しています。このスローガンは市の「人がつながり幸せをつくる快適未来都市」にもつながります。

今年度は全校児童176人と職員23人で、これまでの伝統を守りつつ新しいアイデアを入れながら「つなぐ・つながる」のもと「考働」し、人と人をつなぐ・つながり、真の仲間づくりを行っていきます。

つなぐ・つながる取り組み



縦割り班掃除

高学年が低学年の子に掃除の仕方を教え、美しい学校づくりが学年を超えて受け継がれています。

人権教育

全校児童が真の仲間としてつながるために、年3回の人権集会などを行っています。



荒尾干潟

校区内にある荒尾干潟は有明小の自慢。荒尾干潟水鳥・湿地センターへの見学やテラ体験などの学習を行っています。



ハイ! スクール通信 High School communication

- 市内高校通信 - Vol.19



岱志高校、有明高校、荒尾支援学校の市内3つの高校の取り組みや学生たちの様子などをお届けします。地元高校の新たな魅力の発見につながるかも!?

有明高校から2つのトピックスをお届けします

3年間の集大成

Topics1



インターハイや夏の甲子園大会が中止になり、3年生にとってはもどかしく、なかなか現実を受け入れられない時期もありました。しかし、感染者の減少もあり、各競技で代替大会の開催が決定しました。3年生にとって、これまでの努力の成果を発揮できる大会となり、新たな目標に向かって学校全体に活気が出てきました。感染予防は欠かすことはできませんが、全力で励んでほしいです。

己と向き合う

Topics2



3年生が進路実現のために本格的に動き始めました。例年は、9月から就職試験が始まりましたが、ことは1カ月遅れてのスタート。それでも7月1日からは求人票受付が始まり、多くの企業の皆様から求人票を頂くことができました。

感謝とともに、生徒1人ひとりがこれからの人生と向き合うことができるよう協力し、進路実現につなげていきます。